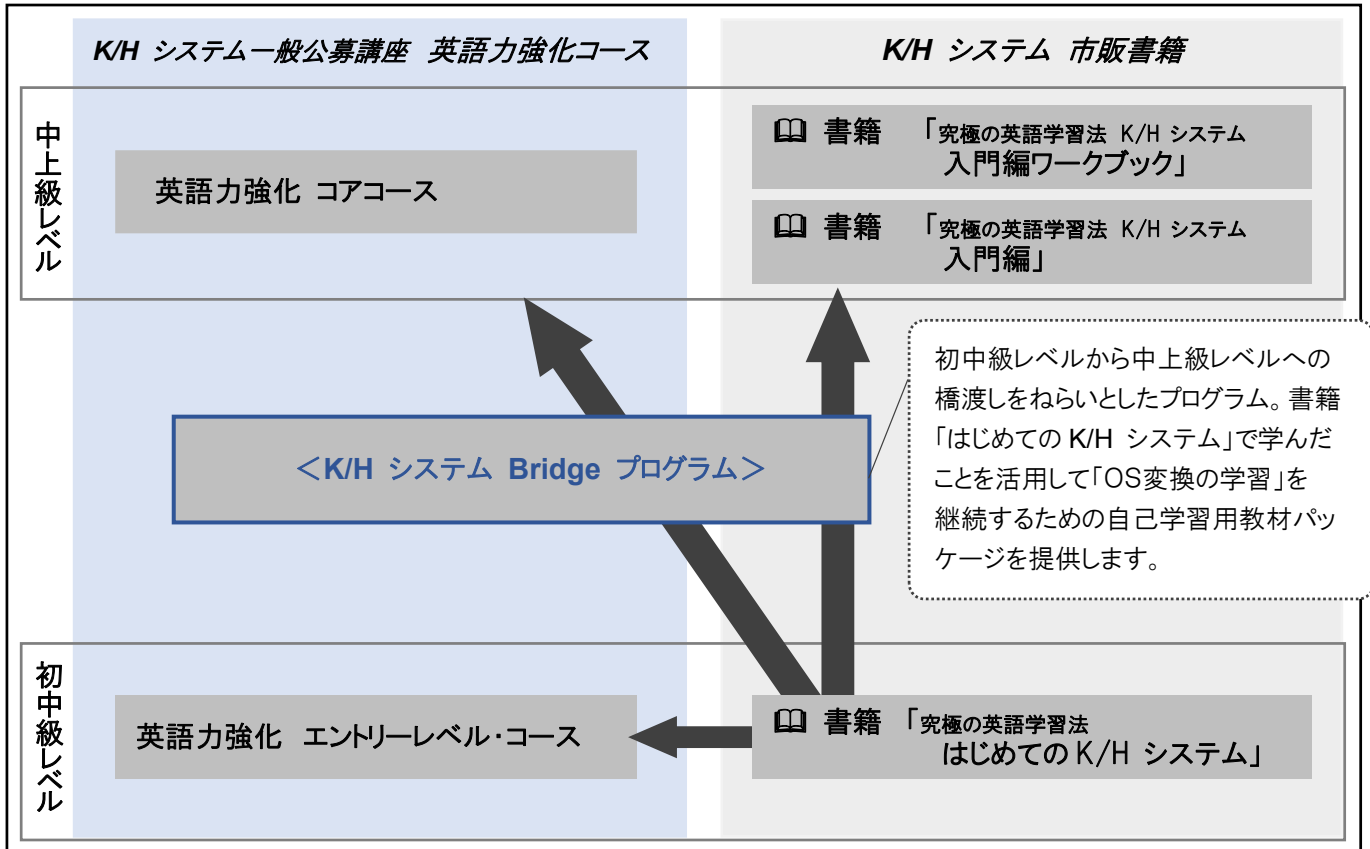
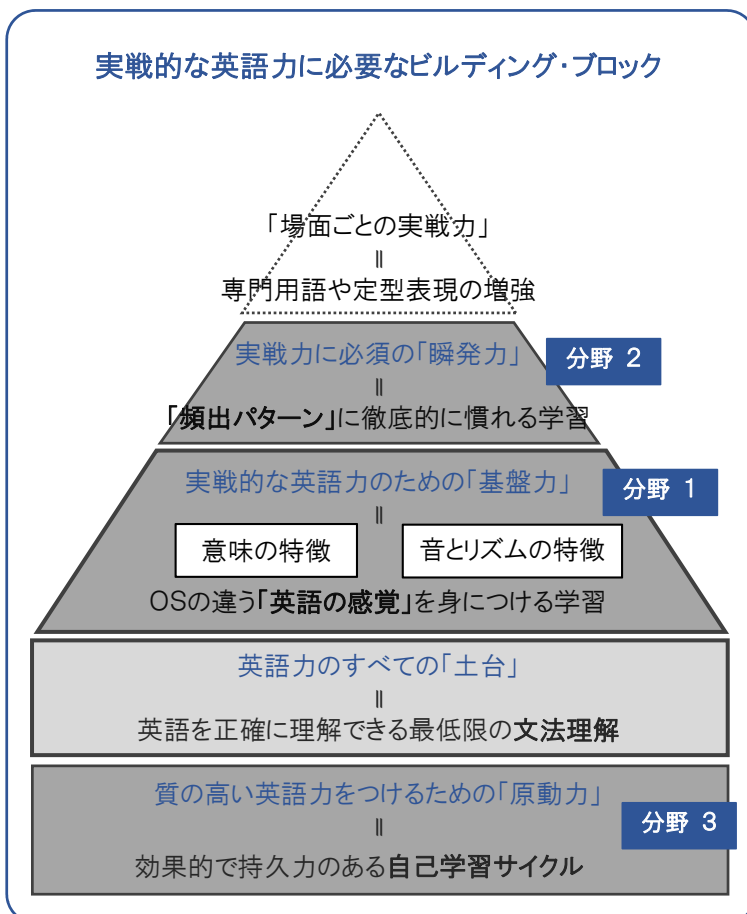


Bridge プログラム の位置づけ



Bridge プログラム でフォーカスする分野

Bridge プログラムは、実戦力を身につける上で不可欠な、以下の3つの分野に特にフォーカスをしています。



分野 1 英語の感覚(英語のOS) を身につける

実戦的な英語力を身につけていくためには、OSの違う「英語の感覚」を作りこむことが不可欠。Bridge プログラムでは、「はじめての K/H システム」で学んだ学習サイクルを実践して2つの<基幹教材>をやり込むことで、「英語の感覚」を作りこむことを第一にねらっています。また、「意味の特徴」をしっかり作りこむために、<個別強化教材>として「構文ドリル」も用意しました。

分野 2 頻出する英語の構文パターン に慣れる

実戦力をつけるための次のフォーカスは、頻出する英語の表現・構文のパターンに慣れ、これらがサッと聞き取れ、使えるようになっていくこと。Bridge プログラムでは、初中級レベルから身につけておきたい「表現パターン・構文パターン」に慣れ、増やしていくための<個別強化教材>を用意しました。

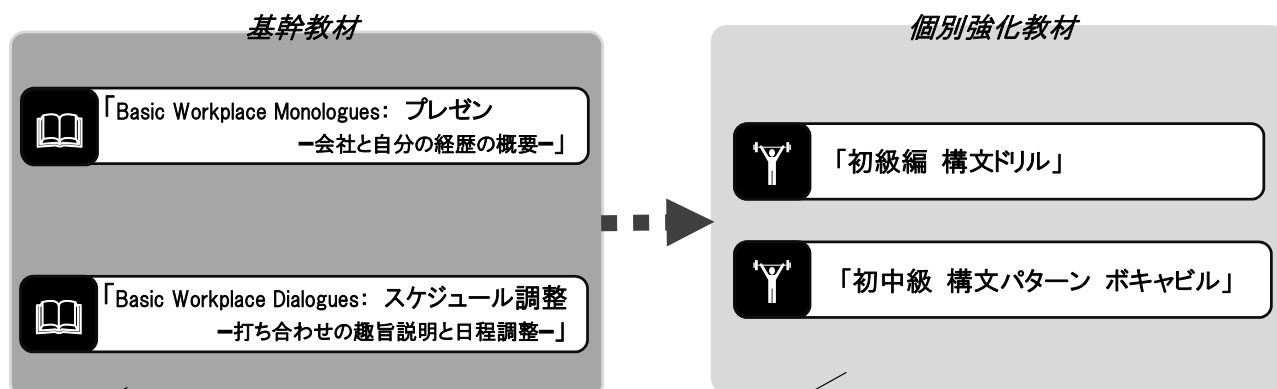
分野 3 効果的な継続学習サイクル を確立する

自分に合った「質の高い学習を継続していける学習サイクル」を確立することが英語力を伸ばすための大きなカギ。Bridge プログラムの教材や付属CDは、初中級レベルの学習者が強化したい感覚にしっかりとフォーカスをして、着実に学習を進めることができるように工夫されています。また「学習ガイドライン」によって、英語力レベルやニーズに合った継続学習の習慣化をサポートします。

Bridge プログラム の教材パッケージのねらい

実戦力にとって不可欠な基盤である「英語の感覚」を作りこむための自己学習用教材をパッケージにしました。

< 基幹教材 > と < 個別強化教材 > の2つのタイプの教材を組み合わせることで、初中級レベルで作りにおきたい力にしっかりとフォーカスし、効率的・効果的に土台づくりを進めることをねらっています。



基幹教材

「はじめての K/H システム」で学んだ視点と学習サイクルを実践して継続学習するための教材です。2つの<基幹教材>を使って、学習サイクルを回していくことで、実戦力に不可欠な基盤である「音の特徴」と「意味の特徴」を作りこんでいきます。

個別強化教材

個別で強化したい力をトレーニングするための教材です。<基幹教材>を使って学習サイクルを回す中で、ニーズが出てきたところで活用。「結+詳+詳」の「意味の特徴」やその上でのってくる「パターン構文」など、初中級レベルでしっかりと強化しておきたい力にフォーカスし、個別に効率よく強化できる形式になっています。

▶ 教材パッケージの詳細い説明については：「K/H システム Bridge プログラムの教材パッケージ」
(プログラム概要サイトからアクセス)